

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

市立名寄短期大学紀要 (2006.03) 39巻:87～89.

学生が小児看護学履修前に持っている子どもイメージ
—自由記載レポート内容からの分析—

伊藤良子

〈研究ノート〉

学生が小児看護学履修前に持っている子どもイメージ —自由記載レポート内容からの分析—

伊藤 良子

The Image of Children that Nursing Students have Before Receiving Pediatric nursing education --- An Analysis Based on the Contents of Free Description Reports

Ryoko ITO

In recent years it has been getting harder for many nursing students, who were raised in nuclear families with few children and hence had few opportunities to be around children, to study pediatric nursing through practice in facilities with a small number of subjects because of size reductions or closings in the pediatrics field.

We believe that finding out the images of children held by nursing students will enable us to devise or examine classes and practice in which students can recall their own childhood and can realize an education with which they can comprehend the meaning of pediatric nursing even without a large number of subjects.

The purpose of this study is to clarify the images of children that nursing students have before receiving pediatric nursing education. The results show that 70% to 80% of the students have positive images such as "cute and affectionate", "pure, accepting, innocent, honest, and naive", "full of curiosity", "always running and cheerful", and "making people around them laugh and be cheerful"

近年、小児科領域の縮小、閉鎖などにより小児看護を学ぶ上で対象が少なく、対象となる子どもの少ない施設での実習では、少子化核家族の中で小児と接する機会が少なく育ってきた学生にとって、学習が困難状態となりつつある。

学生の子どもに対するイメージを知ることは、学生が子ども時代を想起できる授業、実習を工夫・検討することができ、少ない対象でも子どもの看護をとらえられる教育につながると考える。

今回は小児看護学履修前の子どもイメージを明確にすることを目的とした。結果、小児看護学履修前の学生の子どもイメージは、7～8割の学生が「かわいい・愛おしい」「純粹・素直・無邪気・正直・無垢」「好奇心旺盛」「走っている・元気」「周りを笑顔にさせる。元気にさせる。」とプラスのイメージを持っていることが明確となった。

I. はじめに

少子高齢社会となり、子どもが少なくなっている。しかし、だからこそ少ない子どもをより大切に育てていかなければならない時代となってきているともいえる。小児看護学は、その一端を担っているものであり、重要な領域である。しかし近年、小児科領域の縮小、閉鎖などにより小児看護を学ぶ上で対象が少なく、対象となる子どもの少ない施設での実習では、少子化核家族の中で小児と接する機会が少なく育ってきた学生にとって、学習が困難状態となりつつある。河上らは¹⁾「看護学生の子どもに対するイメージを知ることは、学生自身が子どもへの思いや考えを整理することができ、看護ケアを行う上で、相対的に相手の価値観を認め、相手の理解を深めることができる。また看護学生を指導する側にとっても、学生の子どもへのイメージを知ることは、個々の学生に対して、具体的な指導を行い、学生の学習意欲が高まる上で有用である。」と述べている。

そこで学生の子どもに対するイメージを知り、少ない対象、限られた時間で学生のもっている体験、子どもイメージを膨らませる授業、実習の工夫検討を行っていく必要があると考えた。今回は小児看護学履修前の子どもイメージを明確にし検討することとした。

II. 研究目的

自由記載レポートより学生が小児看護学履修前に持っている子どもイメージを明確にする。

III. 研究の意義

学生の子どもに対するイメージを知ることは、学生に子ども時代を想起できる授業、実習を工夫検討することにより、少ない対象でも子どもの看護をとらえられる教育につながる。

IV. 研究方法

1. 研究デザイン：内容分析による質的研究。

小児看護学履修前に子どもイメージについてのレポートを書いてもらい、KJ法にて内容の類似しているものをまとめた。分類の妥当性を高めるために、看護学教員2名により、検討後、吟味検討した。

2. 対象：レポート内容使用承諾の得られた小児看護学履修前の看護学生49名。

3. 倫理的配慮：レポート内容は個人の成績評価には関係ないこと、公表するにあたり個人が特定されるようなことがないこと、途中承諾を変更することがあってもならん不利益がないことを紙面と口頭で説明し、紙面に承諾するか否かを書いてもらい、承諾の得られたレポートのみを使用した。

V. 結果

58名中49名(84.5%)の学生から承諾を得られた。

1. 学生の背景

出身地：北海道内44名(89.8%)、北海道外5名(10.2%)
 きょうだいの有無：無4名(8.2%)、あり45名(91.8%)

(双子1名、2人25名、3人13名、4人4名、5人1名)

年齢：20代前半

2. 子どもイメージ

表1に示すように、4つのカテゴリー、13のサブカテゴリーに区分できた。

表1 学生が持っている子どもイメージ

カテゴリー	サブカテゴリー
肯定的 プラス イメージ	「かわいい・愛おしい」39名79.6%
	「純粹・素直・無邪気・正直・無垢」36名73.5%
	「好奇心旺盛」7名14.3%
	「走っている・元気」8名16.3%
	「周りを笑顔にする。元気にする。」6名12.2%
	「笑顔」2名4%
否定的 マイナス イメージ	「扱いづらい」16名32.7%
	「喜怒哀楽が激しい」12名24.5%
形容詞的 イメージ	「小さい」14名28.6%
	「天使のよう」4名8.2%
	「柔らかい、ふわふわ、プニプニ」6名12.2%
存在として のイメージ	「大切、守る必要がある」16名32.7%
	「成長過程、発展途上」6名12.2%

VI. 考察

肯定的プラスイメージでは、「かわいい・愛おしい」、「純粹・素直・無邪気・正直・無垢」、「笑顔」と好ましい【外観的特性】をイメージしている。

また「好奇心旺盛」、「走っている・元気」と【性格的特性】をイメージしている。「周りを笑顔にする。元気にする。」と【内面的特性】をイメージしている。

否定的マイナスイメージでは、「扱いづらい」、「喜怒哀楽が激しい」と【行動的特性】を自分の体験からイメージしている。

形容詞的イメージでは、「小さい」、「天使のよう」、「柔らかい、ふわふわ、プニプニ」と【視覚的】【抽象的】【触覚的】に捉えてイメージしている。

存在としてのイメージでは、「大切、守る必要がある」、「成長過程、発展途上」と【発達段階】として捉えてイメージしている。

以上のことから、小児看護学履修前でも、子どもを多面的に捉えている学生がいることがわかる。

小児看護学を学ぶ上で、子どもを理解し、子どもに興味・関心をもち、知ろうとすることが重要である。今回の研究では、子どものイメージに関する先行研究²⁾の結果と同様に肯定的イメージが多いことが分かる。肯定的イメージを持つということは、興味・関心を持っていくことにつながると考えられる。

藤原の研究³⁾で、「子どもを意図的に観察させることによって、学生が子どもに興味・関心をもち、育児や親の気持ちへの思いもひきおこされることがわかった。」とっており、今後は、学習内容の分析、授業・実習後の子どもイメージの変化などから、授業・演習・実習の効果を評価し、子どもをより具体的に捉えられるような学習方法の工夫を考えていく必要がある。

VII. 結論

学生が小児看護学履修前に持っている子どもイメージは、先行研究同様肯定的プラスのイメージが強い。子どもを多面的に捉えている学生もいる。

VIII. 今後の課題

今回は小児看護学履修前の子どもイメージについて学生がプラスのイメージを持っていることが明らかとなった。子どもと関わる機会の少ない学生がどのように子どもをイメージしているかを把握することは、子どもに興味・関心をもち、子どもを知ろうとしていけるような授業・演習・実習の工夫につながり重要である。肯定的イメージを持っている学生が小児看護学履修後、実習終了後にどのような変化をするのかを検討

し、子どもを理解し看護を考えられるような授業・演習・実習の工夫をしていく必要がある。

引用文献

- 1) 河上智香・藤原千恵子・上野恵美子・谷口佳生理：4年制看護大学の学生がもつイメージの構造，第34回日本看護学会－看護教育－，p103-105,2003
- 2) 岩本真紀・近藤美月：看護学生の子どものイメージに関する実態調査，香川医科大学看護学雑誌，6（1），p137-142,2002
- 3) 藤原千恵子：子どもの理解を深める学習方法の検討，第22回日本看護学会－看護教育－集録，p266,1991

参考文献

- 1) 岩本真紀・近藤美月：看護学生の子どものイメージに関する実態調査，香川医科大学看護学雑誌，6（1），p137-142，2002
- 2) 大西智恵美・謝花美佐子・仲座明美・小松 智・山里陽子：看護学生の子どもイメージ尺度の検討（第3報）－各学年内の子どもイメージの比較－，第26回日本看護学会－看護教育－集録，p146-148，1995
- 3) 大西文子・浅野みどり：看護学生の子どものイメージと小児看護学実習評価との関連－学生の自己評価を中心に－，日本看護研究会雑誌，21（3），p357，1998
- 4) 加藤奈保美・内海 滉：看護学生の子どもに対するイメージ研究－保育園実習前後の比較（第一報）－，日本看護研究会雑誌，21（3），p359，1998
- 5) 草野美根子・寺田敦子・今福ひとみ・酒見敬子・中 淑子・内海 滉：子どものイメージに関する研究（第2報）－小児看護実習前後の比較－，日本看護研究会雑誌，21（3），p356，1998
- 6) 藤原千恵子：子どもの理解を深める学習方法の検討，第22回日本看護学会－看護教育－集録，p263-267，1991
- 7) 吉田由美・梶山洋子：看護学生の子ども観－子どもにとっての親－，第22回日本看護学会－看護教育－集録，p322-324，1991